

留学経験と外資系企業での製造経験—特に安全管理について

澤 寛

<略歴>

*京大・化学工学・学士(1970)

The University of Washington, Chemical Engineering, Ph.D (1975)

ダウケミカル (株) (1975~2007) 最終役職製造本部長兼衣浦工場長

ダウ・ケミカルパシフィック(1991-1995) Safety, loss prevention & Security director

キャボットジャパン (株) (2007-2011) 環境安全部長

サムソン電子 (株) (2012-2013) 環境安全部技術顧問

・経験した仕事：プロセス開発、プロセス制御、工場設計、工場建設、製造管理、
経営管理、環境安全管理

製造経験した製造化学品：ウレタン樹脂、エポキシ樹脂、

<アメリカ留学経験>

1970年京大化学工学を卒業してすぐ米国シアトルのワシントン大学に留学。米国の大学を卒業するとプラクティカルトレーニングとして最高18か月まで学生ビザのまま就業可能。そのころダウ・ケミカルでは日本で100%出資工場を建設するため日本の大学卒業生で米国の大学院で化学工学専攻した学生を探していて1975年米国のダウ・ケミカルテキサス工場で製造技術者として入社ポリエーテルポリオール工場の現場で12か月勤務した。

<外資系企業職務経験>

1976年ダウジャパンに転籍、主にポリエーテルポリオールと液状エポキシ樹脂のプロジェクトで新規工場の基本設計から生産運転まで主担当エンジニアとして設計、建設、運転員教育、試運転、生産運転を経験した。この間3度の長期出張、4年半アメリカでプロジェクト経験をした。その後1991年から1995年まで太平洋地域の安全統括ディレクターとしてオーストラリア、ニュージーランド、マレーシア、インドネシア、タイ、中国、台湾、韓国と日本にあった当時20工場で安全の業務を統括した。1995年からはダウジャパンの製造本部長兼衣浦工場長として工場の統括管理、ビジネスマネージメントを経験した。

その後、2007年から2011年までキャボットジャパン2012年から2013年までサムソン電子(韓国)で環境安全部に勤務した。

<講演要旨>

米国の大学院で博士課程を修了したことでその後続く外資系素材産業の技術者として工場部門を経験し、製造技術、運転管理、プロジェクトの進め方、環境安全業務でのリスクマネジメントの手法などについて学んだり経験したことなどをお話することで、日系企業と欧米企業の仕事の進め方の違いを紹介して、これからの諸氏の将来への方針選択に少しは参考になるだろうと思うことをお話したい。